

中間評価（表紙）

杵築市 歴史的風致維持向上計画(令和3年3月23日認定)
中間評価(令和3年度～令和7年度)

■ 統括シート(様式1)	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史的な建造物の保存・活用	3
II 歴史的な建造物を取り巻く環境の保全と形成	4
III 歴史や伝統を反映した人々の活動の継承	5
IV 歴史文化の周知と交流	6
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 包括的連携協定による建造物調査の進捗と民間修理相談体制の構築	7
ii 官学連携による調査研究と実証実験の進展	8
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業	9
B史跡杵築城跡保存活用計画策定事業	10
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 城下の営みに見る歴史的風致	11
2 寄港の道しるべに見る歴史的風致	12
3 水利への知恵と信仰に見る歴史的風致	13
4 とうや行事に見る歴史的風致	14
■ 庁内体制シート(様式6)	15
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7)	16
■ 全体の課題・対応シート(様式8)	17

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下の営みに見る歴史的風致	I, II, III, IV	
2	寄港の道しるべに見る歴史的風致	III, IV	
3	水利への知恵と信仰に見る歴史的風致	III, IV	
4	とうや行事に見る歴史的風致	III, IV	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的な建造物の保存・活用		
II	歴史的な建造物を取り巻く環境の保全と形成		
III	歴史や伝統を反映した人々の活動の継承		
IV	歴史文化の周知と交流		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	包括的連携協定（大分県建築士会）による建造物調査及び民間修理相談対応		
ii	官学連携（別府大学・日本文理大学）による調査研究と実証実験の進展		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	史跡杵築城跡保存活用計画策定事業	その他	

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
方針	I 歴史的な建造物の保存・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

経年劣化した建造物の修理コスト増大、所有者の高齢化、未調査物件の存在が課題としてある。

方針

計画的な修理と調査を推進する方針である。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業	特定物件の修理7件、買上げ1件	あり	H30～R12
2	歴史的風致形成建造物の保存対策事業	杵築城の耐震診断及び補強計画の実施	あり	R4～R12
3	歴史的建造物保存対策調査事業	未調査特定物件(候補を含む)調査5件	あり	R4～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業

杵築市北台南台伝統的建造物群保存地区内の特定物件の修理7件と買上げ1件を実施した。景観上重要な建造物修理に補助金を交付することで所有者負担を軽減し、良好な景観の向上が図れた。

・歴史的風致形成建造物の保存対策事業

歴史的風致形成建造物候補である杵築城模擬天守は築50年を経過しているため、今後も杵築のシンボルとして維持していくために、耐震診断及び補強計画の作成を実施した。結果、一部に耐震基準の脆弱性があったものの、建材の状態は良好だったため、補強計画を作成した。本補強計画は耐震判定会に適正と認められたため、令和8年度以降に整備に向けた検討に入った。

・歴史的建造物保存対策調査事業

杵築市北台南台伝統的建造物群保存地区内にある未調査特定物件(候補も含む)を大分県建築士会との業務連携協定のもと、5件の調査を実施した。これにより、民間所有の建物で、整備1件、解体中止1件に結び付き、良好な景観の向上が図れた。

土塀修理の様子



修理前



修理後

④ 自己評価

計画的な調査と修理により、滅失の危機にある建造物の保護が進んでいるが、膨大な修理・維持管理コストへの対策が引き続き必要である。

⑤ 今後の対応

引き続き、特定物件の修理や活用調査を予定しており、保存と活用の両立に向けた支援を継続する。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅱ 歴史的な建造物を取り巻く環境の保全と形成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的な建造物の周辺において、歴史的風致に配慮されていない建造物や放置されている樹木、道路付帯施設などがあり、景観の調和が十分ではない。また、空家化した伝統的建造物の管理不全が、景観や防災・防犯面に悪影響を及ぼす可能性がある。そのため、歴史的な建造物の周辺における修景支援や、空家等の改修・活用支援を推進する方針である。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	地区計画修景支援事業	令和7年度は住宅の改築1件に対し補助を実施。	あり	R3～R7
2	空家活用支援事業	空家バンクへの登録促進（累計531件）および移住希望者への改修費補助を継続実施（令和7年度は9世帯11人）。	あり	R3～R7
3	夜間景観実証実験	日本文理大学と連携し、城下町の武家屋敷景観に適した安心感のある夜間照明の実験を実施。		

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

地区計画に基づく外観制限と補助制度の運用により、城下町地区における調和のとれた町並み形成が進んでいる。空家バンク制度は県内外からの移住促進に大きく寄与しており、空家の放置抑制と定住促進が同時に図られている。また、大学との連携調査により、情緒と安全性を両立させた新しい夜間景観のあり方が明確化された。



修景写真

④ 自己評価

【継続展開】計画に沿った修景誘導や空家対策が着実に進捗しているが、住民からの空家対策強化に対するニーズもあり、さらなる推進が必要である。



空家バンク登録物件

⑤ 今後の対応

引き続き住民自治協議会と連携して空き家物件の掘り起こしを推進するとともに、歴史的建造物の修繕スケジュールを作成し、長寿命化を図る。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅲ 歴史や伝統を反映した人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

民俗芸能等の継承において、担い手の減少や経験者の高齢化が進み、活動の休止を余儀なくされる活動があることが課題である。

方針

将来にわたる活動の継承を図るため、休止中のものも含めた調査・記録作成や、保存会・担い手への支援を強化する方針である。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	伝統文化記録調査事業	大田地域全域(R5～R7)、杵築熊野地域(R6)での民俗調査を実施。地元報告会、報告書刊行済。	あり	R4～R12
2	文化財保存活用地域計画の策定	令和6年度策定協議会立上、令和7年度公募型プロポーザル方式にてコンサル選定、令和7年度住民文化財意識調査等を実施。	あり	R4～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・伝統手文化記録調査事業

別府大学との官学連携による民俗調査を通じて、これまで記録されていなかった地域文化をまとめ報告書として刊行した。また、地元への成果報告会を実施し、地元の魅力を再認識され、ながらく休止していた民俗行事の復活に結びついた。



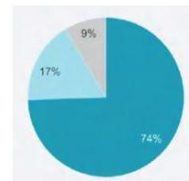
民俗調査の様子 R6/6

・文化財保存活用地域計画の策定

市における文化財の保存と活用に関する総合的な法定計画で、文化財保護行政の中・長期の方向性を示すマスタープランと短期に実施するアクションプランの両方を担う。令和7年度に実施した住民文化財意識調査では、82%が「文化財に興味ある」という一方で、約54%が「興味はあるが歴史や文化財を知らない」という結果であった。

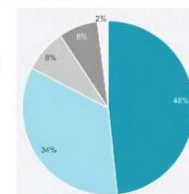
杵築市の歴史をもって知りたいと思うか

もっと知りたい：74%
自分が住んでいる地区のことは知りたい：17%
知りたいとは思わない：9%



文化財への興味・関心

ある：48%
どちらかといえばある：34%
どちらかといえばない：8%
ない：8%
わからない：2%



住民アンケートの結果

④ 自己評価

官学連携による記録保存が進み、長期間休止していた祭礼が再開されたことは、継承に向けた大きな成果である。また住民の文化財意識の結果が確認できたことは今後の計画作成に重要な資料となった。

⑤ 今後の対応

官学連携の調査成果等を「文化財保存活用地域計画」の作成に反映させ、市内の文化財を網羅的に把握することで、アクションプランを明確化する。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅳ歴史文化の周知と交流	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

文化財看板の劣化や、多言語化・ICT対応の不足により、来訪者の利便性や理解が十分でない。

方針

歴史的風致を幅広く伝えていくため、多言語化に対応した案内板の整備等、多様なニーズへの対応を図る。また、情報発信技術を活用しながら歴史的風致の周知に取り組んでいく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	文化財案内板等整備事業	看板の現状把握調査を実施し、令和3年度から7年度中に新設4枚、修繕4枚を実施。	あり	R4～R12
2	歴史教育の推進	副読本「きつきの歴史・文化財なるほど！ブック」を市内新4年生全員に配布。「古文書初心者講座」を全10回開催を毎年開催。	あり	R4～R12
3	観光コンテンツ造成	寺町散策や酒蔵ディナーなど、歴史的建造物を活用した「体験型・滞在型」プログラムを開発・販売開始。	なし	R4～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・文化財案内看板整備事業

不朽・破損した文化財看板や新規文化財指定の看板新設を実施した。令和3年度から7年度までに新設4枚、修繕4枚を実施した。

・歴史教育の推進

毎年、杵築城下町ボランティアガイドの育成・研修に文化財担当者が講師となって実施。また市内10カ所の新小学4年生全員に副読本配布を実施。住民向け講座では、古文書初心者講座として学識経験者を講師に招き、杵築城下町170年間分の記録が記された「杵築城下町町役所文書」の解説講座を実施。これらを通して、市民の歴史に対する愛着と理解が深めている。



古文書初心者講座の様子 R4/3

・観光コンテンツ造成

令和6年度に、商工観光課、観光協会と連携し、新たな体験プログラムの商用化した。これによりインバウンドを含めた来訪者の回遊性と満足度が向上を目指している。



観光コンテンツのチラシ R6/3

④ 自己評価

学校教育との連携や多様な体験プログラムの創出により、歴史文化を通じた交流人口の拡大が図られている。

⑤ 今後の対応

引き続き、看板の新設、修繕、歴史教育の推進を進め、観光コンテンツとの連携が相乗効果となるよう取り組んでいく。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
効果	i 包括的連携協定による建造物調査の進捗と民間修理相談体制の構築		

① 効果の概要

重要伝統的建造物保存地区等の歴史的建造物の保護のための連携体制の確立

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	杵築市北台南台伝統的建造物群保存地区保存計画	あり	R4～
2	杵築市景観計画	あり	R3～
3	城下町地区地区計画	あり	R4～

③ 効果発現の経緯と成果

杵築市北台南台重要伝統的建造物群保存地区をはじめ、市内にある風致形成建造物の候補や指定文化財候補、登録文化財候補となる建造物の調査や所有者からの修理相談支援を目的として、令和4年11月25日に大分県建築士会と包括的連携協定を結んだ。



旧志手家住宅主屋

・歴史的建造物保存対策調査事業

令和4年から7年までの間に5件の調査を実施し、うち民間所有の建物で、整備1件、解体中止1件に結び付き、良好な景観の向上が図れた。また令和令和6年8月15日には本市2件目となる国登録有形文化財「旧志手家住宅(カテリーナ古楽器研究所)主屋」が登録に繋がった。



建築士会による建造物調査の様子

・包括的連携協定による組織向上

大分県建築士会が実施するヘリテージマネージャー研修会、及び養成講座での市担当者による講座や実習場所の提供することで、お互いの組織向上につながっている。



包括的連携協定の調印式の様子



研修会の一環で行った伝建九州ブロック会議の様子

④ 自己評価

ヘリテージマネージャーという古建築に関する知識に精通した建築士が携わることにより、専門性の高いデータの収集が可能となっただけでなく、住民からの修理相談に対し、その場で技術的意見を聴くことができるため、歴史的建造物の維持・向上に専門性と速効性のある連携体制が整った。

⑤ 今後の対応

引き続き、包括的連携協定のもと、建造物調査や修理希望者相談を実施し、保存地区内の景観向上を図っていく。また修理途中での現地説明会などを開催し、ヘリテージマネージャー研修などに協力していく。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
効果	ii 官学連携による調査研究と実証実験の進展		

① 効果の概要

大学の専門的な知見を活用した調査研究および実証実験により、歴史的風致の維持向上に資する新たなエビデンスの獲得と、地域コミュニティの活力向上。

② 関連する取り組み・計画

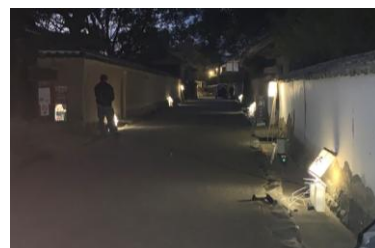
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	文化財保存活用地域計画	あり	R4～
2	第2次杵築市環境基本計画	あり	R3～
3	伝統文化記録調査事業	あり	R4～

別府大学（伝統文化調査）および日本文理大学（建築・景観調査）との連携を通じ、行政だけでは困難な専門的調査や住民参加型実験を推進した。

③ 効果発現の経緯と成果

○日本文理大学との連携（夜間景観実証実験）

城下町の武家屋敷景観に適した夜間照明のあり方を検討するため、実証実験を実施。「電球色で手に届く高さの照明を不均一に配置することが、情緒と安心感を両立させる」という具体的な指針を得ることができた。この成果は、今後の修景事業や街路整備における景観誘導の基準として活用可能となった。



実証実験の様子 R7/1

○別府大学との連携（伝統文化記録調査）

民俗学研究室と連携し、熊野地域や大田地域全域での聞き取り調査を実施。これまで公的な記録が乏しかった無形の民俗行事を体系的に記録調査した。また、学生が主体となった調査報告会を地元で開催することで、住民が地域の価値を再発見するきっかけを創出した。特に熊野地域では、報告会等の結果、休止していた亥の子行事の復活につながった。



民俗調査の様子 R6/7

○別府大学への実習場所の提供

別府大学の博物館実習を受け入れ、旧市立図書館に保管されていた膨大な民具資料の清掃とナンバリングを実施。令和10年完成予定の文化財保存活用地域計画への未指定文化財のリスト化に反映した。



博物館実習の様子 R7/12

④ 自己評価

大学との連携により、専門性の高いデータの収集が可能となっただけでなく、学生と地域住民の交流を通じて「歴史文化を次世代へ引き継ぐ」という意識の醸成が図られている。特に夜間照明の知恵や民俗調査は、文化財保存活用地域計画の策定において重要な成果である。

⑤ 今後の対応

引き続き、官学連携事業を実施し、これまで不十分であった無形の文化財の把握や重要伝統的建造物群保存地区内での住環境の安全性、利便性を高める検討と進め、具体的な整備の事業化を進めていく。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	A 重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>杵築市北台南台重要伝統的建造物群保存地区（平成29年1月選定）において、江戸時代の屋敷地割や武家地の風情を保持し、歴史的な建造物である特定物件の保存修理を計画的に進めることで、良好な環境を次世代へ継承することを目指す。</p> <p>【取組の経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度 修理事業（建造物1件、工作物1件） 令和4年度 修理事業（建造物2件、工作物1件） 大分県建築士会との包括的連携協定締結 令和5年度 官学連携（日本文理大学による旧田嶋家住宅利活用調査） 令和6年度 用地買上事業 1件 官学連携（日本文理大学による夜間照明実験調査） 令和7年度 修理事業（建造物1件、工作物1件） 公開活用事業（保存調査1件） <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="1018 331 1385 546">  <p>官学連携（日本文理大学）の旧田嶋家住宅利活用調査 R05/6</p> </div> <div data-bbox="1018 622 1385 891">  <p>建築士会による建造物調査R 05/12</p> </div> </div>			
<p>② 自己評価</p> <p>重伝建制度導入後、毎年1件以上の修理または用地買上事業を実施し、景観の維持・向上を進めている。また大分県建築士会との包括的連携協定に基づき、専門家による詳細な実測調査や記録調査を修理前に実施することで、建造物の歴史的価値を正確に把握した上での復元修理を行っている。調査実施したことにより、上記修理事業や解体を検討していた民間所有物件が保存に方向転換に結びついた。さらに日本文理大学との官学連携事業による保存地区内での夜間実証実験を行うことで、住環境の安全性・利便性を図るための施策を得た。</p> <p>一方で、経年劣化が進む物件の増加に対し、膨大な修理・維持管理コストの確保や所有者の高齢化への対応が喫緊の課題となっている。</p>			
外部有識者名	九州大学 准教授 加藤 悠希		
外部評価実施日	令和8年3月27日		
<p>③ 有識者コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買上げや修理補助といった公的支援により、滅失の危機にあった重要物件が確実に保存されている点は高く評価できる。 ・専門家組織（建築士会）との連携により、痕跡に基づいた修理が行われており、文化的な真正性が保たれている。 ・今後の旧田嶋家住宅の修理においては、保存修理に留まらず、地域コミュニティの拠点や観光コンテンツ（茶道、体験プログラム等）としていかに持続的に活用していくか、ソフト事業との更なる連携が望まれる。 			
<p>④ 今後の対応</p> <p>引き続き、重要伝統的建造物群保存地区をはじめとした、旧城下町の景観の保全と向上を目指し、民間への補助金を交付し、修理、修景事業を確実に進めていく。</p> <p>また、専門家組織、高等教育機関、住民と協働で、本保存地区を中心に城下重点区域の歴史風致を向上し、文化財の保存又は活用が推進されるよう調査研究を進めていきたい。</p>			

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	B 史跡杵築城跡保存活用計画策定事業	種別	その他

① 取り組み概要

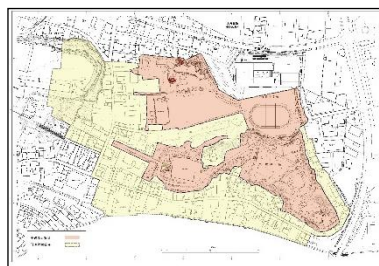
令和2年(2020)3月に国指定史跡となった「杵築城跡」について、適切な保存管理と効果的な活用を行うための指針となる「保存活用計画」の策定を実施した。

・策定期間 令和4年度(2022)から令和6年度(2024)

令和4年6月に策定委員会を発足し、専門的な知見を取り入れながら、史跡杵築城跡の本質的価値を分析・整理し、適切な保存と活用の方針を定めた。当初は2年間での策定を予定していたが、計画内容をより充実させ、文化的真正性を担保するために検討を重ね、令和7年3月に計画を完成した。



委員会の様子



計画範囲図

② 自己評価

史跡杵築城保存活用計画策定委員会を計5回開催し、考古学や建築史の専門家による審議を徹底し、地元意見にも耳を傾けた。また、現在建っている模擬天守(昭和45年築・風致形成建造物候補)の扱いと、地下に眠る史跡遺構の保存をいかに両立させるかについて、慎重にアクションプランを策定した。計画の完成により、今後の整備・活用の法的根拠が整い、国からの補助金活用を含めた具体的な事業展開が可能となった。

課題としては、今後の具体的な整備(模擬天守耐震補強や遺構表示など)において、市民のシンボルとしての親しみやすさと史跡の本質的価値を適切に保存した上でいかに調和させるかが挙げられる。

外部有識者名	別府大学 教授 田中 裕介
外部評価実施日	R8年3月23日

③ 有識者コメント

・杵築城跡が持つ「細川氏支配時代の江戸時代初期の城郭と一国一城令以後に大きくレイアウトを変えた城郭への変化がよくわかる」という学術的価値を正確に評価し、それを保存・活用方針に反映できている点は、歴史的風致の維持向上において極めて意義深い。

・計画策定に時間をかけ、内容を吟味したことで、単なる保護にとどまらず、観光や教育現場での活用を見据えた実効性の高い計画となっている。

・今後はこの計画に基づき、埋蔵文化財の慎重な取り扱いと、地上建造物の適切な維持管理を並行して進めることが期待される。

④ 今後の対応

・完成した計画書をもとに、令和7年度中に国(文化庁)への申請を行い、正式な認定を目指す。

・計画に基づき、まずは模擬天守の耐震診断結果を踏まえた補強工事や、藩主御殿跡の整備検討など、優先度の高い事業を順次予算化する。

・策定された計画を文化財保存活用地域計画に整合性を持たせ、さらに計画内容を案内板の更新に反映させ、市民が史跡の価値を再発見できる機会を創出する。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7
歴史的風致	1. 城下の営みにみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的な建造物の保存・活用 II 歴史的な建造物を取り巻く環境の保全と形成 III 歴史や伝統を反映した人々の活動の継承 IV 歴史文化の周知と交流		

① 歴史的風致の概要

新年の屋敷祭り、夏の天神祭り、祇園祭といった祭事が、地割を維持した城下町の町並みを舞台として受け継がれている。また杵築藩主松平英親が築造した白水池と数々の井手や水路など藩政期を礎とした水利により、地域の人々は生業を続けるとともに、水利に関わる建造物の維持管理や、若宮八幡社での御田植祭、若宮楽、亥の子行事等、農耕にまつわる文化や営みが継承され、歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

- ・重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業
杵築市北台南台伝統的建造物群保存地区内の特定物件の修理7件と買上げ1件を実施した。景観上重要な建造物修理に補助金を交付することで所有者負担を軽減し、良好な景観の向上が図れた。
- ・歴史的風致形成建造物の保存対策事業
歴史的風致形成建造物候補である杵築城の耐震診断及び補強計画の作成を実施した。診断結果と補強計画をもとに実際の整備に向けた検討に入った。
- ・歴史的建造物保存対策調査事業
杵築市北台南台伝統的建造物群保存地区内にある未調査特定物件（候補も含む）を大分県建築士会との包括的連携協定のもと、5件の調査を実施したこにより、民間所有の建物で、整備1件、解体中止1件に結び付き、良好な景観の向上が図れた。
- ・官学連携事業
城下町の武家屋敷景観に適した夜間照明のあり方を検討するため、実証実験を実施。「電球色で手に届く高さの照明を不均一に配置することが、情緒と安心感を両立させる」という具体的な指針を得ることができた。

建造物修理の様子 R5/3



修繕前



修繕後



日本文理大学学生による事前調査と当日説明の様子

③ 自己評価

重要伝統的建造物群保存地区内の修理・修景・買上事業を着実に進めることで、良好な景観の維持及び向上につながっている。また、官学連携事業により、保存地区内の生活の安全性、利便性の検討が進んでいる。

④ 今後の対応

重要伝統的建造物群保存地区では、保存整備事業を始め、歴史的建造物腐朽対策事業を進め、「旧田嶋家住宅」の復元整備を進め、保存地区内の良好な景観向上を図る。また日本文理大学をはじめとした、官学連携を進め、夜間景観や最新の建造物非破壊診断調査を実施し、良好な景観創出を模索していく。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7
歴史的風致	2. 寄港の道しるべにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ歴史や伝統を反映した人々の活動の継承 Ⅳ歴史文化の周知と交流		

① 歴史的風致の概要

別府湾と守江湾は、古来から豊かな漁場や海上交通の要衝として重要な機能を担ってきた。漁師や海上を行き交う人々は海から見える古墳や灯台、鳥居等を目印とした。また、八幡奈多宮の夏越大祭や王子八幡社の夏祭、美濃崎港の十日恵比寿等の祭事や加貫港に伝わる龍神様等、海との関りが深い信仰も受け継がれている。海を通した人々の営みが道しるべとなる建造物や町並みと一体となり歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

・文化財保存活用地域計画作成事業

令和6年8月、大分県が中心となって実施している近世重要遺跡詳細分布調査の中で、既に風致の構成要素となっている海辺に建つ神社や新たに杵築藩の参勤交代で風待ち茶屋として使用された守江の御茶屋遺構について、専門家による現地確認を実施した。



現地遺構確認の様子 R6/9

また令和7年10月には、八幡奈多宮の前に広がる奈多浜の白砂青松の維持管理を続けている地元団体である奈多狩宿住吉海岸の松林を守る会などにヒアリングを行った。

「寄港の道しるべにみる歴史的風致」の新規及び既存の構成要素の調査を実施したことにより、文化財保存活用地域計画作成の記載内容の専門性が高めることができた。

・伝統文化記録調査事業

令和6年4月5日、大分県指定無形民俗文化財「奈多宮の御田植祭」がコロナ禍の休止を経て、5年ぶりに再開したため、市文化財担当者により、記録確認調査を実施。コロナ禍以前と変わらない状態での再開を確認した。



再開した御田植祭の様子 R6/4

・文化財防火デーに伴う消防訓練の実施

令和7年度に、杵築地域にある八幡奈多宮にて、住民と協働で、模擬文化財を使用した文化財搬出訓練や初期消火訓練を実施した。当該地は、国指定文化財1件、県指定文化財7件、市指定文化財6件を有する神社で、訓練時に文化財説明を実施することで地元文化財に対する愛着と理解が深めることができた。



文化財防火デーの様子 R8/2

③ 自己評価

専門調査によって歴史的風致の新たな構成要素を見出すことができた。特に八幡奈多宮は、令和11年に創建1300年を迎えるため、地域コミュニティによる継承意識も高まっており、協働で今後の調査方針を検討することで、さらなる継承意識の醸成が図れた。

④ 今後の対応

引き続き、奈狩江地域の魅力向上を図るための調査を行っていく。併せて、奈狩江地域内でも官学連携による伝統文化記録調査事業を実施し、有形だけでなく、無形の文化財の調査を実施し、歴史的価値の発見・再認識につながるよう鋭意取り組んでいく。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7
歴史的風致	3. 水利への知恵と信仰にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史や伝統を反映した人々の活動の継承 Ⅳ 歴史文化の周知と交流		

① 歴史的風致の概要

水の確保が厳しい自然環境のなかで、人々は工夫を凝らし、営みを続けてきた。山香地域には森林や田園に囲まれて神社が点在し、楽や神楽等が、五穀豊穡のために恵みの水を求めた人々の祈りを今に伝えている。

いくつもの溜池を連携させ、山間部から森林の栄養分を含んだ水を平地へと運ぶ連携溜池は人々によって大切に利用され、現在も多くの地域に潤いを与えている。

② 維持向上の経緯と成果

・歴史的建造物保存対策事業

令和4年度に大分県建築士会と包括的連携協定を結び、歴史的建造物の指定・登録等候補物件の調査を開始。同年に調査を実施した「旧志手家住宅(カテリーナ古楽器研究所)主屋」調査の結果、令和6年8月15日に国登録有形文化財に登録された。

・文化財看板整備事業

地元要望のあった以下の指定文化財看板の修繕を行った。

令和4年度 泉福寺国東塔説明版(県指定)

小武寺仁王像説明版(市指定)

令和7年度 延隆寺仁王像説明版(市指定)

・指定文化財修理事業

令和7年度、山香町立石にある延隆寺の仁王像(市指定)が長年の地盤沈下により傾いたため、指定文化財補修補助金を交付し、修繕修理を行った。

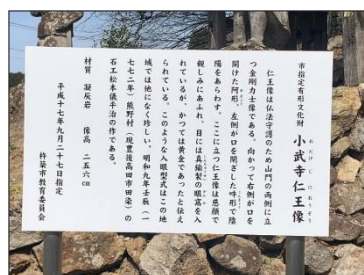
・文化財防火デーに伴う消防訓練の実施

令和5年度に、山香地域にある延隆寺にて、住民と協働で、模擬文化財を使用した文化財搬出訓練や初期消火訓練を実施した。令和7年度の指定文化財である仁王像に向けて、修理訓練時に文化財説明を実施することで地元文化財に対する愛着と理解が深めることができた。

文化財看板整備の様子



修繕前



修繕後

R5/3

③ 自己評価

文化財の新登録や指定文化財の修繕、看板の整備事業を着実に実施することで、伝統文化継承意識の醸成が図れた。



文化財防火デーの様子

④ 今後の対応

引き続き、指定文化財の修繕、看板の整備事業を着実に実施し、山香地域の魅力向上を図っていく。併せて、山香地域内でも官学連携による伝統文化記録調査事業を実施し、有形だけでなく、無形の文化財の調査を実施し、歴史的価値の発見・再認識につながるよう鋭意取り組んでいく。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7
歴史的風致	4. とうや行事にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史や伝統を反映した人々の活動の継承 Ⅳ 歴史文化の周知と交流		

① 歴史的風致の概要

とうや行事は、氏子の地区の人々から成る神元座によって、受け継がれてきた。行事は、厳かな雰囲気の中神社で執り行われるほか、集落の家々や、稲穂色づく田園、田原家五重塔を含む多数の石造物を背景として御神幸が行われる。とうや行事が神社や石造物、集落の町並みと一体となって、伝統的な信仰を反映した歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

・文化財案内看板整備事業

大田地域内では、宝陀寺無縫塔（県指定）及び石書醍醐妙典蝗虫供養塔（市指定）の2件の文化財看板の修繕と新設を行った。特に石書醍醐妙典蝗虫供養塔は、令和4年7月31日に市指定有形民俗文化財として新たに文化財指定され、令和7年に傾きかけていた石造物本体の修理工事を実施し、併せて新規文化財看板の設置を行った。

文化財看板の新設



新設前



新設後

R8/3

・伝統文化記録調査事業（官学連携）

別府大学民俗学研究室と連携し、令和5年から令和7年の3年間をかけて大田地域全域の民俗調査を実施した。調査結果は、『杵築市大田地域民俗調査報告書—大田俣水・大田波多方周辺の民俗—』と『杵築市大田地域民俗調査報告書2—旧田原村とその周辺の民俗—』の2冊にまとめられ、令和5年、令和7年に地元への調査成果報告会も実施した。

報告の結果、所有者不在のため指定文化財候補に留まっている石造物を地区で管理してはどうかという機運が高まっている。



報告会の様子

R6/3

・文化財防火デーに伴う消防訓練の実施

令和6年度は、とうや行事の伝承場所の一つである田原若宮八幡社にて、住民と協働で、模擬文化財を使用した文化財搬出訓練や初期消火訓練を実施した。



文化財防火デーの様子

③ 自己評価

官学連携による詳細な記録調査が進んだこと、および地元の継承活動の活発化がみられ、風致の向上につながった。

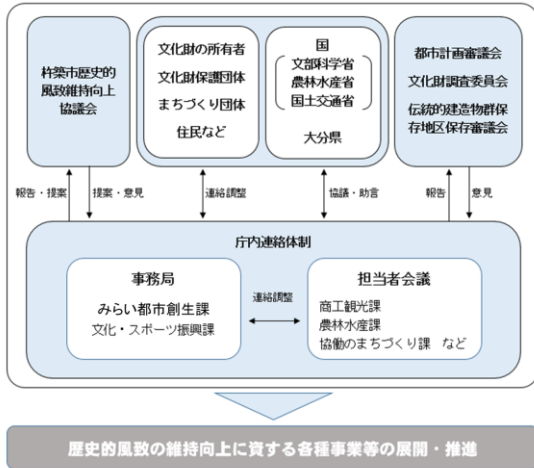
④ 今後の対応

引き続き、指定文化財の修繕、看板の整備事業を着実に実施し、大田地域の魅力向上を図っていく。併せて、官学連携による伝統文化記録調査事業の成果を文化財保存活用地域計画に反映し、より専門的な調査方針を示し、歴史的価値の発見・再認識につながるよう鋭意取り組んでいく。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

みらい都市創生課（都市計画係）と文化・スポーツ振興課（文化財担当）が事務局となり、商工観光課や農林水産課等の関係各課と担当者会議を通じて横断的に連携している。



歴史まちづくりの体制

協議会の様子

② 庁内の意見・評価

協議会等を通じた部局間調整は円滑であり、「杵築のアイデンティティである城下町を未来に残したい」というゴールは完全に一致している。

文化財担当の「守るプレーキ」と、都市計画担当の「活かすアクセル」の双方が機能し、絶妙なバランスで意見を戦わせ、協議会を通じて多様な意見を取り入れることこそが現在の杵築市の歴史まちづくりにおける健全なプロセスとなっている。

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 住民意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み今よりもっと空家が増えるので対策が必要と感じる。 ・周囲の家屋が朽ちていて景観が悪い、古いのはいいが保存することができないと意味がない。 ・建築物に規制があることで理想の建物が建てられない。 ・高齢者が増え管理できない建物や空家が増えてきている、城下町の中に泊まる施設や飲食店が少なく、魅力がないから必然かなと思う。 ・南台、北台、杵築城と江戸の文化を観光のメインにしているので、観光に来る人の利便性だけ考えて、にぎわいのある街にしてほしい。 ・家の周りは静かで住みやすいが、インバウンドを誘致すると夜の騒音などが心配。伝建保存地区なのであまり賑やかにする必要はないのでは。 ・日本やこの城下町地区の文化や風土を守る人にこの地域を楽しんでもらいたい。 ・他県の友人がくると杵築はいかにも城下町らしい。また行きたいと感激していましたが、今はさみしいただの田舎町になったといいます。もう一度、活気のある城下町になって欲しい。 ・持続可能な文化財の保護の為に、近くにまだ残っている武家屋敷などもあるので、少し手をいれて民泊のような形で宿泊できる施設があれば遠方から見られる方にも紹介できるのと思います。（食事はまちの飲食店などを利用） ・伝建保存地区であるため、他所からの移住は困難ではないかと考えられます。このままでは数年後に「空家地域」になることが懸念されます。建物の維持、修繕の外に駐車場の確保が難しい住居もあります。伝建保存地区の区域を再考して観光地区と居住地区に区分してはどうか。 			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>P3（方針別シート）</p> <p>杵築城の模擬天守は史跡の中に含まれているので、立て替えは困難であると聞いている。今回、耐震の調査をされて補強していくことだが、杵築のシンボルなので今後も守って欲しい。</p> <p>事務局回答</p> <p>委員のおっしゃる通り、後世に残していきたい。策定された計画をもとに、今後もより実効性の高い保存・利活用を行っていく。</p>			

市町村名	杵築市	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 全体の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城下重点区域内の歴史的建造物について、未調査物件の存在は大分県建築士会との包括的連携協定のもと組織化が進み対応が出来つつあるものの、空き家化の根本原因である所有者の高齢化と合わせて、修理コストの増大し、補助金があっても維持・管理が思うように進まないのが課題である。 ・歴史的な建造物の周辺において、計画に沿った修景誘導や空家対策が着実に進捗しているが、住民からは空き家対策が引き続き要望があり、ニーズにあった空き家対策強化が課題である。 ・歴史や伝統を反映した人々の活動の継承において、特に民俗芸能等の継承では、官学連携事業を通して、継承の重要性は地元での再認識は進んでいるものの、根本の原因となっている少子高齢化に伴う担い手の減少は進んでおり、活動の休止を余儀なくされる活動があることが課題である。 ・歴史文化の周知と交流において、文化財説明版の修繕・新設は随時進めているが、観光・交流を支える案内板の多言語化やICT活用の不足していることが課題である。 			
<p>② 今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城下重点区域内の歴史的建造物については、引き続き、補助金を交付し、所有者負担を少しでも軽減し、歴史的建造物の修理や活用調査が進むよう支援していく。 ・歴史的な建造物の周辺において、引き続き、計画に沿った修景誘導や空家対策が着実に進めるとともに、住民自治協議会と連携して空き家物件の掘り起こしを推進し、歴史的建造物の修繕スケジュールを作成し、長寿命化を図る。 ・歴史や伝統を反映した人々の活動の継承において、将来にわたる活動の継承を図るため、引き続き、官学連携事業を活用し、休止中のものも含めた調査・記録作成を進め、さらにその成果を現在作成中の文化財保存活用地域計画に反映し、アクションプランの中で保存会・担い手への支援を強化する方針を検討する。 ・歴史文化の周知と交流において、引き続き、関係各署と連携した観光コンテンツの醸成や学校教育連携による多様な体験プログラムの創出により、歴史文化を通じた交流人口の拡大を図っていき課題解決を図る。 			